

第二次漢字簡化方案（草案）と現代化

伊 井 健 一 郎

目 次

- I. 第二次漢字簡化方案（草案）の前後
 - 1. 漢字の簡略化と整理
 - 2. 普通話の普及
 - 3. 漢語拼音方案の制定・施行
 - 4. 改革の新たな重大事
- II. 四つの現代化のなかで
 - 1. 再び「二草」の問題にふれて
 - 2. 日本の略字について
 - 3. 文字改革の方向・意義
- III. 結びにかえて

はじめに

中国における文字改革、別けても漢字の簡略化の問題について、これまでに歴史的経過をたどりながら考えてきた。（『徳山大学論叢』第23号、24号、25号）

本稿は、最初に、比較的今日の問題として提起された「第二次漢字簡化方案（草案）」（以下「二草」と略す）をめぐって、若干の検討をしたい。

「二草」に到るまでの建国後二十数年間に、漢字の簡略化、共通語の普及および漢語拼音方案の制定と推進等の面で、どのような仕事がなされてきたか、簡単な回顧を行う。そのあとで「二草」の概要を述べ、試用停止になった経過をみる。第一表と第二表に登場した具体的な字についても、再度いくらか検討を加えてみる。80年代後半の今日、簡略化の問題は、むしろ議題に

のせられないような風潮であるが、文字政策の歴史の一時点を画したものと
して、わざわざとり扱った。

次に、中国の近代化建設の中において、簡略化のもつ問題点を考える。わ
が国における略字の問題と共通する面もある。今日では、“語文の現代化”
といわれる文字改革の方向性について、周先生を登場させて考えてみる。

I. 第二次漢字簡化方案（草案）の前後

1. 漢字の簡略化と整理

『論叢』25号で、具体的問題をかなり詳細にみてきた。文字改革研究委員
会（文字改革委員会の前身）は、民間で流行している簡体字について研究し、
漢字筆画の簡略化と字数精選の案を起草し始め、1954年“漢字簡化方案（草
案）”を編さんした。55年1月、委員会と関係部門は、「草案」を30万部印刷
発行し、中央クラスの新聞と一部の雑誌でそれを発表し、全国各地で討論を
組織した。討論の意見にもとづき、委員会は修正を行い、10月の全国文字改
革会議を通し、国務院漢字簡化方案審訂委員会で審議決定させた。56年1月、
国務院は“漢字簡化方案”を正式に公布した。544の繁体字は、515の簡体字
になった。そのうち230字は、公布時に正式に通用し、285字と54の簡化偏旁
は、試験的に使って意見を求めることとなった。

簡体字は、数年の試用・遂行を経て、64年5月、“簡化字総表”として委
員会より編さん印刷され、簡体字使用の規範となった。

簡体字は、繁体字に比べて合理的で、学びやすく、覚えやすく、書きやす
く、筆画において50%程度減少している。例えば、「第一、二表に出ている
繁体字は平均筆画16画だが、簡略化後は平均8画になり、第三表の繁体字は
平均16画だが、偏旁の簡略化後は平均11画に減っている」¹⁾“积极响应”は
合計33画であり、その繁体字は65画であった（積極響應）。

注1)『文字必須改革』、文字改革出版社、1974年、16ページ。

第一表	352字	偏旁とならない簡体字
第二表	132	偏旁となれる簡体字
”	14	簡化偏旁
第三表	1,754	簡体字、この類の字は第二表の簡体字と簡化偏旁を応用して推論されたもの。
合計	*2,238字	“漢字簡化総表”（1964年）

（注*：須，釜が二度出るので実際は2,236字である。）

漢字の簡略化は、児童の識字教育、文盲一掃²⁾および一般の人々の筆記に大いに役立っており、労農兵大衆や少年児童から熱烈に歓迎された。

漢字は、形が複雑で、字数が多いことにより、学習や使用上大きな負担になっていた。55年10月の会議は、“第一批異体字整理表草案”を討論し、12月に委員会と文化部は“第一批異体字整理表”を發布した。これにより1,055の異体字（音が同じ、意味が同じで書き方のちがう字）をなくした。例：秘秘，杰傑，麻麻，猫猫，泪淚，恒恆，床牀等のうち、後者が前者の異体字である。“漢字簡化方案”では、斗谷范台など筆画の簡単な同音字で、筆画の多い繁体字に代替して、一部の漢字を簡素化した。56年から64年にかけて、国務院の批准を経て、常用漢字によって見慣れない地名字に代替し、30余の地名用字を改め、また一部の見慣れない字をなくした。以上合計すると、計1,100余の漢字を簡素化したことになる。

字形の整理面では、64年文化部と委員会は、共同で“印刷通用漢字字形表”（6,196字）を出版、印刷関係へ配布し、標準の印刷体を定め、印刷用鉛字字形をできるだけ手書き楷書に近づけた。宋字体を改めて、真愈吳半などとした。

66年5月には、“漢字正字小字彙”が出版され、73年8月第二次印刷がされた。正音については、“普通話異読詞三次審音総表初稿”（63年2月）にも

2) 毛澤東「連合政府について」（1945. 4. 25）、『毛澤東選集』第三巻、北京外文出版社、364ページ。「全人口の80%をしめる文盲を一掃することは、新中国の重要な仕事である。」周恩来「政府活動報告」（1957. 6. 26第一期全国人民代表大会第四回会議）では、「文盲が約70%を占めている。……1949年から56年に、全国で2,200余万の文盲を一掃した」と述べている。

とづき、100余の未公認簡化字が載せられた。(その大半が「二草」にとり入れられた)。漢字の簡略化と整理には、まだ多くの仕事が残されている。科学技術用字、人名地名用字の中の大部分の見慣れない字は、常用字で代替すべきであり、異体字はひき続き整理し³⁾、漢字の字形は一層合理化され、偏

部分计量单位名称统一用字表⁴⁾

类别	外文名称	译名〔括号内是淘汰的译名〕	备注
长度	nautical mile mile fathom foot inch	海里〔漚, 海漚〕 英里〔哩〕 英寻〔罇, 罇〕 英尺〔呎〕 英寸〔吋〕	
面积	acre	英亩〔畝, 亩〕	
容量	litre bushel gallon	升〔公升, 蛎〕 蒲式耳〔噐〕 加仑〔呀, 霰〕	
重量	hundredweight stone ounce grain	英担〔担〕 英石〔石〕 盎司〔啊, 英兩, 温司〕 格令〔喱, 英厘, 克冷〕	1 英担=112磅 1 英石=14磅
各科	kilowatt torr phon sone mel denier tex	千瓦〔旺〕 托〔托〕 方〔方〕 宋〔味〕 美〔嘆〕 旦〔黛〕 特〔纒〕	功率单位 压力单位 响度级单位 响度单位 音调单位 纤度单位 纤度单位

3) 中国研究所『新中国年鑑』1977年版。

「人民日报」(76. 7. 18)「漢字改革を早めよう」では、主要紙に掲載された7,075編、6,967,000余字について調査し、使われている5,080字を使用頻度に従って2級に分け、漢字の字数制限が可能であることを具体的に提案している。3,200余の標準漢字でよし!

4) 「光明日報」77. 11. 18。

旁と筆画の構造の標準化、通用化等も進められねばならない。

「四人組」が粉碎されて以後、77年、委員会と国家標準計量局は、「關於部分計量单位名称統一用字的通知」を出し、「一部の計量单位名称中の特造漢字を淘汰した」⁵⁾。そして“涇”を“海里”に，“砗”を“混凝土”に，“铨”を“钢筋混凝土”に改める措置⁶⁾をとったりした。國務院が“中華人民共和國計量管理条例（試行）”を頒布した後、7月20日に“通知”が出された。そして、そこでは59年に國務院が出した“統一我國計量制度的命令”が回顧されている。

2. 普通話の普及

1955年の全国文字改革會議と現代漢語規範問題學術會議は、漢民族の共通語（すなわち北京語音を標準音とし、北方語を基礎方言とし、典型的な現代白話文による著作を語法の規範とする）——普通話⁷⁾を確定した。58年、毛澤東（マオ・ツォートン）は「すべての幹部は普通話を学ばなくてはならない」⁸⁾と呼びかけた。同年、周恩来（チョウ・エンライ）は“報告”の中で、共通語の普及を“一つの重要な政治的任務”だと指摘した。

56年、國務院はすでに“關於推廣普通話的指示”⁹⁾を出し、中央と各省、市、自治区に、共通語普及の工作委員会が相ついで成立した。國務院はまた、各省、市、自治区が教育厅（局）内に、普通話推廣処（科）を設置するよう指示し、“大いに提唱し、重点的に推進し、次第に普及する”方針を定めた。全国の小学・中等学校の語文課では、56年秋から共通語の教学が始めら

5) 同上 '77. 12. 20。

6) 同上 '77. 11. 18。

7) 本堂寛「標準語とは何か」、『正しい日本語』第一巻、明治書院、昭和46年、48ページ。そこで「共通語はsein（あることば）であり、標準語はsollen（あるべきことば）（the standard languageの訳語）であるといえよう」と述べられる。“普通話”は共通語、標準語、普通語などと訳出される。

8) 前掲書、『文字必須改革』18ページ。

9) 「光明日報」'78. 2. 17「指示」の公布により、共通語をよく学ぶ決心をした郝建秀氏（青島方言がぬけなかった）は、63年、周総理より“你会說普通話很好”と激励され、いつまでも肝に銘じている。

れた。解放軍や中央の関係部門も所属部門へ指示を下した。

教師の養成と各地の方言調査活動は、非常に重要な問題だった。55年7月、教育部は“關於舉辦小学語文教師標準語語音訓練班的通知”を出した。56年2月、教育部、中国科学院語言研究所、委員会は共同で、普通話語音研究班を前後9期開いて、中核となる要員を2,000名近く養成した。各省、市もそれぞれ語音訓練班を開いた。方言の全般的調査は、過去の歴史になかった規模と速さで進められ、全国2,000点で行われた。調査研究の基礎の上に、省、市、自治区の方言概論や方言と共通語との対応した共通語学習用の副読本などが編さんされた。56年には普通話審音委員会が成立し、何年かの活動を経て、1,100の異読詞と190余の地名の読音に対し審議を行い、三群の審音材料を発表して、漢語語音の規範化によりどころを提供した。

中央人民廣播電台（放送局）は、56年より共通語語音教学放送講座、中小学と師範学校語文朗読放送講座を何回か行った。同時に関係部門では、教学と朗読のレコード¹⁰⁾を吹きこんだ。57年、上海科学教育映画製作所は、“大家來說普通話”のフィルムを製作した。

各省、市では共通語教学の成績発表会が開かれたが、58年から64年、79年にかけて、委員会は関係部門と共に、前後5回、北京、上海、青島、西安、北京で、全国普通話教学成績觀摩会（コンクール）を開いた。共青団などは、少年兒童朗読・放送演説のコンクールを2回開いた。その他委員会と関係部門は、一部の地区の学校や社会における共通語普及活動の報告会や經驗交流座談会を開いている。

10年余にわたって、この方面においても妨害・破壊活動があった。「百年共通語を普及しなくても死ぬようなことはない」¹¹⁾などとデタラメなことが言われたという。広範な大衆は、全国民の団結を強め、プロ独裁を強固にす

10) 「光明日報」78. 6. 30「普通話正音教学片」が間もなく出版されるという。

11) 前掲書、『文字必須改革』20ページ。

るためにという認識で、とりわけ南方方言区で¹²⁾、この活動をいっそうくり広げた。中国で「方言がなくなるのは100年ないし200年かかる」¹³⁾と予想もされているが、共通語は、中国文字の音標化実現の必要条件であり、共通語を普及しなければ、音標文字化はできない。（しかし共通語の全面的な普及と方言の消滅とは無関係だ。方言がなくなることはあり得ないし、また消滅させてはならない。）「75年、教育部は、上海市教育局と江蘇省東台県文教局の総括材料を各省、市、自治区の局に転送し、この普及活動に力を入れるよう求めている」¹⁴⁾。

3. 漢語拼音方案の制定・施行

1951年の“文字必須改革，要走世界文字共同的拼音方向”の指示にもとづき、委員会は52年から方案の制定を研究した。3年程、民族形式字母の仕事をしたが、満足すべき結果が得られなかったので、56年毛澤東と党中央の指示により、ラテン字母の制定を確定して、ひき続き研究を進めた。56年2月“漢語拼音方案（草案）”が正式に発表され、全国で広く意見が求められた。8月、各方面の意見にもとづき、「草案」に対する修正意見が出され、国務院で審議された。国務院には、漢語拼音方案審訂委員会が設立されて、審議が進められた。審議決定をする委員会の反復討論、協議と修正を経て、57年10月には修正草案が出され、11月1日国務院全体会議第60次会議で採択されて、全国人民代表大会へ出し討論、批准させる旨決定された。58年2月、第1期全人代第15次会議は、この方案を正式に批准した¹⁵⁾。

漢字に発音記号をふれば、字を覚えるのに役立つ。58年秋より、全国の小

12) 上野恵司「文字改革のあゆみ」、『中国研究月報』、1978. 10, 4 ページ。方言が八つに分類されている：北方語（官話方言）（北方方言，西北方言，西南方言，江淮方言），吳方言，湘方言，贛方言，客家方言，粵方言，閩南方言及び閩東方言である。

北京語言学院『中国語教科書』（光生館，昭和49年）：北方語を使う人数が最も多く、漢語を使う人々の約7割以上を占める。

13) 中国研究所『中国年鑑』1958年版，389ページ。

14) 「光明日報」'77. 12. 20。

15) 同上 '77. 12. 20。

学語文のテキストは、漢語拼音を使って、知らない字に発音記号をつけた。これは識字教育と共通語の普及に大いに役立った。60年、中共中央は“關於推廣注音識字的指示”を出し、山西省万荣県の注音識字の経験を紹介した。ある地区の文盲一掃用テキストは、漢語拼音で漢字に発音記号をつけ、字典・詞典もこれに改めて、またいくらかの書籍雑誌の「難字にも拼音をふっている」¹⁶⁾。

拼音方案の公布により、壮 (zhuàng), 苗 (miáo), 彝 (yí), 侗 (dòng), 布依 (bùyī), 黎 (lí), 哈尼 (hāní), 傣 (dǎi)¹⁷⁾, 佤 (wǎ)¹⁸⁾, 納西 (nàxī) の10の民族は、漢語拼音方案を基礎として、自らの文字を創作した。維吾爾 (wéiwú'ěr), 哈薩克 (hāsàkè), 景頗 (jǐngpō), 拉祜 (lāhù) の4民族は、拼音方案を基礎として、文字改革を進め、新文字方案を設計した¹⁹⁾。そのうち新疆のウイグル、カザフ族人民は、自治区革命委員会(当時)の決定により、76年8月から2種類の新文字を全面的に使用することになった²⁰⁾。これはローマ字表記法の本格的採用の先駆けともみられ、「発音表記法の統一」

16) 同上 '77. 12. 2 北京の業余文化学校における注音識字運動の紹介とともに、南京師範学院徐震理の提案“難字に発音記号をふる”が紹介されている。

17) 陳煒湛「漢字の起源」、『人民中国』1978. 2。

新中国成立の当初、中国訪問団は雲南省でリースー族の刻木に出合った。「三〇×三」これらの記号には「三人の人が来て、満月の時に、われわれと会った」、「いま大中小の土産三包みをとどけるから、上中下の各クラスのかしらにそれぞれ贈ってほしい」という二つの意味があった。

18) 『現代中日辞典』(光生館、昭和36年) 佤 Qiǎwǎ 族のことなら、主に雲南省に居住、286,000人余(1953年調査)。この少数民族の中で、最も人口の少ないのが赫哲族で450人だった(1953年)。

19) 前掲書、『文字必須改革』、22ページ。

20) 「中国通信」'76. 8. 26 以前両民族はアラビア文字を土台にした旧文字を使用していた。1959年11月「漢語拼音方案」を基礎にしたウイグル、カザフ新文字案(草案)を制定、60年から試用。修正を経て、64年3月自治区第三期人民代表大会第一回会議は新文字を採択し、同年10月国務院に経過を報告、承認された。65年1月、自治区はこの案を正式に公布し、全面的におし広めた。新文字はウイグル、カザフ語の基本語音を完全に表わせ、筆画が簡単で、構造がはっきりしており、児童の学習と成人の文盲一掃に好都合である。また印刷・通信設備の近代化にも条件をつくった。

「光明日報」'78. 5. 19 (陳宗振)ウイグル、カザフ新文字は、それぞれ33の字母をもち、26のラテン字母を包括する。漢語に似ているかあるいは近い音を表わしている。

以上の意味があろうとも考えられている²¹⁾。

また報道によると²²⁾、国家測繪総局と委員会が65年に制定し、草案形式で公布施行した“少数民族語地名漢語拼音字母音訳転写法”（67年6月修正）が10年来の試行経験を総括して、出版されている。“音訳転写法”は、漢語拼音字母を用いて少数民族語地名をつづる標準となり、地図測量作業中に少数民族語地区名を調査記録する記音工具となっており、“漢字音訳、少数民族語地名の定音、選字の主なよりどころとなっている”。ちなみにその総則第1条では、“字母の順序に従って我国地名資料と索引を編さんするために、便利な条件を提供する”ものだと述べている。

漢語拼音方案の公布は、外国人の漢語学習²³⁾にも便利な条件を与えている。また中国の人名、地名ローマ字つづりの標準化問題²⁴⁾についてふれると、例えば“北京”はどうつづられるのか？

漢語拼音	Běijīng
英語	Peking
フランス語	Pékin
スペイン語	Pekin
ポルトガル語	Pequin
イタリア語	Pechino
エスペラント語	Pekino

中国の知名を漢語拼音字母でつづるということは、文字改革にかかわる重要

21) 「読売新聞」'76. 7. 11 同自治区ではウイグル語系が約500万人、カザフ語系が約70万いるといわれる。

22) 「光明日報」'77. 11. 4（胡振華）。

23) 同上。'78. 10. 25（128期）“漢語拼音方案”が教学に使われているところ：①英：オックスフォード大学、ケンブリッジ大学 ②米：カリフォルニア州立大学、エール大学、ホノルル大学 ③ほとんどすべてのフランスの大学 ④オーストラリアの国立大学とキャンベラ教育専門学校 ⑤ニュージーランドのいくつかの大学。

“漢語拼音方案”が採用されているもの：①スイス：国際旅行百科ガイドブック ②仏：ラルース（ラ羅斯）大百科全書ともう一つの百科全書 ③英：大英博物館と大英国立図書館 ④英訳の文芸作品、紅樓夢、杜甫詩選、魯迅文選 ⑤大英百科全書15版も旧つづりの後に（）で漢語拼音を注音している。

24) 「光明日報」'77. 11. 4（孫耀芳）。

な措置というだけでなく、中国の主権の行使にかかわる大事だとも提起されている。

拼音方案の宣伝出版についてみると、委員会は北京に文字改革文献資料展覽室を設立し、全国各省、市の共通語、漢語拼音方案普及の展覧会や注音識字教学成績展覧会を行った。北京はじめ各省、市の関係部門は、大量の注音読物²⁵⁾や拼音テキストを出版し、漢語拼音放送講座²⁶⁾を開設している。

漢語拼音の応用は、多方面にわたる。委員会はまた関係各部門と協同で、聾啞者用の“漢語手指字母方案”の制定を研究し、“盲文”を改善した。これに対し、北京市の第四聾啞学校の朴（ピアオ）先生の記事によると、新たな指式（主として復鼻韻母）を補充して、“漢語手指音節”（または漢語音節指式）²⁷⁾を設計している。これは右手で声母をだし左手で韻母をだし、両手で同時に一音節を表わす方法である。

その他、漢語拼音の電報業務を行ったり、国の技術標準符号、手旗信号、灯火通信、索引の編さんなどにも応用され、拼音字母の優越性が示されている。漢語拼音をおし広めるには、まだ多くの仕事が残されている。語文教学の中で如何にして一層大きな役割を果させるか、漢語拼音の各方面における研究と実験²⁸⁾、そして文字の拼音化についての研究等。

25) 例えば《HUANLEDE SONGGE》（欢乐的颂歌，上海人民出版社，1977年，49ページ）などがあり、その一例を示す。

Xīnjiāng míngē

新疆民歌

Hāsīláo 哈斯勞 作の最後の一節

Máo Zhǔxíde Shìyè hòujì yǒuren,

Wǒmen yángméi-tǔqì kuòbù xiàng qián.

毛主席的事业后继有人，

我们扬眉吐气阔步向前。

26) 「光明日報」'78. 5. 19 中央人民放送局と委員会は、5月22日より開設。講座は74年と75年に3回開いた。第1課は王力、周有光、徐世榮などの話があり、計11課、22日間で終る。

27) 同上 '78. 9. 13.

28) 同上 '77. 7. 6 方平甫「表音文字との併用を提唱しなければならない」は、魯迅の「日本語のように名詞のたぐいの漢字だけを残して、手始めにまず助詞、感嘆詞、その後には形容詞、助詞もラテン表音文字化しなければならない」とのことばを引用している。「毎日新聞」（'77. 7. 22）では、最近北京の小学校で配布された副教材の一部“かなまじり文”（拼音併用文）が「……他们发现有个 fù 女地震时 zāshāng 了 jiǎo, ……」のように紹介された。

「文化大革命」を経て、中国の地名標準化の仕事は喜ばしい成果を収めた。77年9月、中国が国連第3回地名標準會議に提出した中国地名のローマ字つづり方の決議が採択された²⁹⁾。漢語拼音字母で中国地名をつづることは、中国ですでに確定した方針である（名従主義の原則）。74年以来“中華人民共和国地図”他が漢語拼音によって出版されている。この會議は、67年以来5年に1回開催されているが、中国は初めて代表を派遣した。そして漢語拼音字母を用いてつづった中国地名を国際ローマ字つづりの標準とすることについて決議が採択された。

4. 改革の新たな重大事

文字改革の三大任務について、概略回顧してきた。さて、77年12月20日付「人民日報」などの紙上で、委員会の手による第二次漢字簡化方案（草案）が発表された。同紙社説は、「文字改革工作の歩みをはやめよう」と題し、音標文字化実現の前に漢字の簡略化をし、各種の準備を積極的に進めよう、と強調している。

A. 「二草」の概要

「二草」の発表は、全中国人民の政治文化学習の一大事であり、文字改革事業のおさめた新たな成果だといわれた。早くも75年5月、委員会は「二草」を上級に報告した（上報）³⁰⁾、しかし張春橋（チャン・チュンチャオ）がかすめていた権力によってさし押えられていた、とのことである。江青（チャン・チン）は「我々は現在多くの簡化字を知らない。文盲になった」とデタラメを言った³¹⁾。「二草」は主として、流行中のもの、当面の応用から（常用字）出発、字数の精選などの原則から作業が進められ、第1表245字、第2表605字については、それぞれ試用中に意見が求められ、座談討論による

29) 「光明日報」'77. 11. 4, '78. 10. 25 中国代表は、アテネでの會議に、下記の技術的資料を配布した：「中国地名漢語拼音字母拼写法」「少数民族語地名的漢語拼音字母音訳転写法」、漢語拼音版「中華人民共和國分省地図集」。

30) 「人民日報」'77. 12. 20。

31) 「光明日報」'78. 1. 20。

意見聴取が行われた。(第1表のみは試用に供せられた)

草案全体では、合計853の簡化字と簡化偏旁61を収め、字数をへらす面では、263字へらしている。なお“説明”³²⁾によると、第1表の字は、すでに全国で流行しており、出版物でまず試行してよい。第2表については、大衆の広範な討論を経て、修正・補充あるいは削除の意見が必要だ、と述べられている。それは第2表の字が、(一)一部の地区またはある業種での流行(通用)(二)社会で用いられているものの一つ、(三)大衆の簡化法によるもの、だからである。第2表269字のうち、簡化偏旁とならないものが245、簡化偏旁となるものが24である。類推した簡化字は8の(1)、(2)による。そうして類推の範囲は、4,500の比較的常用の字にとどめている。

<第1表>

(1)簡化偏旁とならない簡化字	172	} 193	} 248字
(2)簡化偏旁となれる簡化字	21		
(3)類推した簡化字	55		

<第2表>

1. 同音代替字	72	} 269	} 605字
2. 形声字	115		
3. 特徴字	32		
4. 輪郭字	23		
5. 草書楷書化字	16		
6. 会意字	6		
7. 符号字	5		
8. (1)簡化偏旁となれる簡化字	(24)	} 336	
(2)単独で字になれない簡化偏旁	(16)		
(3)類推した簡化字	336		

「二草」の内容については、芝田稔教授のまとまった論文がある³³⁾。第1

32) 「光明日報」, 「人民日報」'77. 12. 20 委員会により77年5月付で説明がなされている。

33) 芝田稔「中国漢字簡略化の動態」, 『アジアレビュー』, 1978年夏。

表（172字）のうち二音節語7字を除いた161字について、造字法から分類して説明されている：(1)同音代替字 46字（28.5%）(2)形声字 78字（48.4%）(3)筆画省略字 25字（15.5%）(4)会意字（0.6%）(5)古字（1.2%）(6)符号字（6.2%）および草書楷書化による簡化字である。

B. 試用停止

77年12月に発表された「二草」は、その翌日から「人民日報」、「光明日報」はじめ各新聞、雑誌において使用され始めた。第1表が試験的に使われたのである。その中で（つまり読む、書く、覚えるなどの実践の中で）漢字の役割に「新しい生命をふきこんだ」³⁴⁾ものとして受けとられた。そしてまた「草案」が正式に方案として公布されることは間違いない、と信じられてもいた。

第1表のうち相当数は、66年に委員会が出した「漢字正字小字彙」で「すでに大衆のなかで流行している新簡化字」として収録されており、いわば「今回それが公認されたかたち」³⁵⁾になっている。第2表についてみても、 $\frac{2}{3}$ 以上が字音を媒介としたものである。

ところが筆者の観察によると、雑誌や新聞紙上では、この「二草」の簡化字が見られなくなった。（もっともNHKの「中国語テキスト」は、当初から新簡化字を使いだし、79年3月までずっと使用した）。「人民日報」では、78年8月7日の「社説」で尸、𠂇、𠂈……を発見し、9月3日付紙上³⁶⁾の一文にいくつか発見するのである。干卅、来仗、见百、忍见、力男……。それ以降のものについては、目にふれない。

この事態は何を意味するのか？ 全く使用しないというのか、一時中断して整理し、総括して正式に公布する準備をするためのものか。部外者には知るよしもないが、中国からの帰国者の話では、とりわけ知識人の中で評判がよくないという。この使用中断は周有光（チョウ・ヨウコェン）氏の意見

34) 奥水優「中国の漢字簡略化」、日本国際貿易促進協会『国際貿易』'78. 3. 14, '78. 3. 21。

35) 同上紙。

36) 朱岩「党的組織部門要模範地執行党章」。

(’78. 6. 16「光明日報」) などのためであり、「新簡化字自身の問題というよりは、その発表方法、そして少し強行すぎた普及方法に原因があるようだ」³⁷⁾とする観測もある。

C. 第1表について

「二草」については、賛否両論各方面からの指摘がなされ、具体的提案が行われている。「中国語文」、「語文学習」、「光明日報」などに発表された文章の中から、いくつかひろってみよう。

まず78年1月6日付「光明日報」は、「文字改革」欄第110期で³⁸⁾、「漢字の簡略化は労農兵が久しく待ち望んでいたことである」、「人民大衆の智慧の結晶」、「書家は簡化字を立派に書くべきである」という文章を載せた。と同時に、「二草」問答が行われ、この問答は2月3日付112期³⁹⁾でも続けられた。

ある人は、過去に広く伝わっていた120余の簡化字を集めたが、今回の「二草」と対照してみると、94字が完全に同じだった⁴⁰⁾という。この例は、大衆の基盤が現実にあったことを一面では表わしているといえよう。

筆画の特に多い字で画数をへらした例：爨₀、了₀、吐₀等。筆画の少ない同音字で代替した例：丁、旦、合、又₀等。いくつかの繁体字が同音の簡体字で代替された例：丁、胡等。そしてある字を簡略化することにより、類推して同一偏旁をもつ多くの字を簡略化した例：卒→悴₀、啤₀等。

小学校の語文教育の時間は、小学段階の総時間のうち41%を占め、その大部分が識字に費やされている⁴¹⁾。それゆえに大衆は漢字簡略化を熱烈に歓迎し、自らその改革にとり組んでいる。同音代替の方法で、声符をかえて簡略化した例：𠄎₀ (猷)、第2表形声字の𠄎 (綻) 等。

書家に対しては、58年の周恩来「報告」が参考になろう。「書法は一種の芸術であり、当然漢字簡略化の制限を受けなくてよい。……我々は皆が“漢

37) 大塚秀明「草案に対する反響」、中国研究所『中国研究月報』’78. 10 (NO. 365)。

38) 筆者はそれぞれ北京卫戍区某部劉殿才、浙江省湖州中学革委会、顔逸明、許宝華。

39) 芝田稔、前掲論文での紹介：然燃、健健、寨徽、簿などの簡略化について。

40) 「光明日報」’78. 1. 6。

41) 同上 ’78. 1. 6。

字簡化方案”に従って字を書くのを強制することはできない。だから漢字簡略化は我国の書道芸術に対してなんら不利な影響を及ぼさないであろう。」それでもなお書道芸術の色があせぬよう、文字形体の美観⁴²⁾に注意せよ、という意見はある。ム₀、忍、丘引および第2表の同音代替字妄武などを見にくい字としてあげる。しかし考えてみたら、广、严（廣嚴）などが公布された時はどうだったか、どうも角が一つなく、四角にならず“見にくく”なかっただろうか？「だが近年來の使用を経て、これらの字も見やすく（好看）なったのではないか？」⁴³⁾

第1表は、その「説明」にあるように、すでに全国的に流行していたものだ。夕、宀、汙、午、仗、形₀、奘、男等は、とくに大衆の間で広範に流布していた。「二草」が出たとき、学生たちは「手をたいてすばらしいと喜んだ」⁴⁴⁾。筆画の多い字は、次のように変わったのである：苙（原字は18画→6画）、缺（原字は25画→9画）、笈（原字は20画→10画）、轟₀（原字は24画→10画）および見ただけで頭が痛くなる羸は、同音代替で、盈₀と簡略化された。

「二草」では、勤労人民が創造した簡化字、その中でも古字⁴⁵⁾が多く採用された。「集韻」の中の太、“漢度尚碑”の忼₀、“廣韻”の兒₀、“正字通”の疒₀、“韻会”の荅、“玉篇”の坐₀₋₁、“碑別字、六朝別字記”、“篇海”や雜劇“目連記”の孕₀などである。第2表特徴字の量は、“漢白石神君碑”にも現われているが、60年代に毛澤東は“新量日報”と題辞を書いている。

また魯迅（ルー・シュン）の著作にもいくつか使われている。“象一坐₀小山”（鑄劍），“让起坐位来了”（范愛農），“鴨的喜劇”の中で“科斗”が使われているが、誤解を招く恐れはない。丘引、毕₀几、卡₀几、辟历および苙₀龙などの複音節の語は、義符をとって同音のものに合併しても意味はかわらず、拼音化へ向かうのに有利である。

42) 同上 '78. 4. 21。

43) 同上 '78. 1. 6。

44) 『語文学習』上海教育出版社, '78. 3 (NO. 3)。

45) 曹揚第二中学彭嘉強「漢字簡化有利於改進語文教學」, 『語文学習』'78. 3, 33ページ。

古くは假借字と呼ばれたが、同音代替による方法で多くが簡略化されている例⁴⁶⁾をあげよう：①原字の義符をとり去り、声符のみを残した例：倉、丁、果_ㄨ、勾_ㄨ、井、令、予_ㄨ、欠_ㄨ ②筆画の簡単な書きやすい同音字で、筆画の多い書きにくい字にかえた例：旦、付、午、肖、桂、兰、了、上 ③意味が近いかあるいは関係する同音字は合併でき、そのうち筆画の簡単なあるいは常用の字を適用する例：杆、忿、坐、子 ④多音節の単純語、擬声語、連綿語、音訳語など、ただ音声を残すものの例：丘引、科斗、辟历、**芦龙**、毕几、卡几等。同音代替字は、意味上において混乱を起こさないことを原則とするが、表音の符号に近く、筆画が簡単だという共通点をもっている。

「二草」はまた、56年「方案」を再度簡略化した例もある：各_ㄨ、兰_ㄨ、仓_ㄨ、勾などで、同音代替により、簡略化の足りない字に対して、更に作業を進めたのである。

以上は、主としてその肯定的評価の面をあげた。とりわけ初期に現われたプラスの意見を出した。以下は+、-合わせた形で、いくつかの個々の字についての意見を紹介して、考えてみたい。

茅 委員会は75年、新簡化字を収集し「草案」を制定しているが、浙江省呉興県の公社大隊でも多くの字が流行している⁴⁷⁾。その字が「二草」に収められたのを見て、農民は格別の親しみを覚えている。蔡は芑とも書かれたが茅とされた。これに対しこの姓の人は受け入れ難いと言う。蔡は一般には、姓と地名のみに用いるので「暫時簡略化しなくてもよい」⁴⁸⁾という意見もある。同様に「蔡さんは反感をもっている」⁴⁹⁾という「読者来信」が紹介されている。

姓については検討されてもよいが、地名はこだわらなくてよい。姓については、56年方案で葉を叶にしたが、同様に考えることはできないか。まして

46)「光明日報」'78. 3. 21 (山東大中文系沈孟瓔)。

47) 同上 '78. 3. 21 蔣傳一「貧下中農喜愛新簡化字」。

48)『中国語文』'78. 2, 127ページ。

49)「光明日報」'78. 4. 21。

や「人名、地名のローマ字表記」⁵⁰⁾の統一が言われているときである。

兰 同音代替に対する問題点は、主として意味の混乱が起きないかということ、その簡体字がどの原字に代ったかの推測をする負担のようである。兰と藍は改めるべきではないという⁵¹⁾。それはちがう植物である。兰花は一体藍色の花なのか、それとも多年性草本植物なのか？ そして瀾と濫とは、茫₀にするのも不適當だ。前者は大波であり、後者は泛濫などと使い、流水漫溢の意味だという。

杆 杆は木製の杆であり、竿は竹製、秆は作物の杆を表わす。意味上の細かいちがいは、用語によって表現して、それぞれ木杆、竹杆、麦杆と呼ぶ。このような意味の近い同音字は、筆画の比較的簡単な、書きやすい字“杆”で代替しても疑問は生じない⁵²⁾。

宀 在は宀の声符である。寨の声母はzh、在の声母はzであり、この二字はいくつかの方言では同音だが、共通語では異なるので、南方方言区ではとりわけ若干の困難がある⁵³⁾。しかし「二草」問答では⁵⁴⁾、宀が20余の省、市、自治区においてすでに流行していること、宅zháiは音と意味からして不適當だと説明される。また小学生の学習の便を考えて、会意字、象形文字などを採用して、宀か宀⁵⁵⁾と簡略化できないかとの意見もある。

実₀、苳₀、桔、拈、刃、実等の声符も上の宀と同類の問題をかかえている。実を符と改めるよう主張する人もいる⁵⁶⁾。fūとfùの声調のちがいを重んずるか、そのかわり四画を五画にするかのちがいである。

汎、𪗇 類推により便利のような法則性が必要だ、とも言われる。关はguān、缶はguànで声符によって類推できる。彳は水、又は符号だが、これで適當だといえよう。

50) 「読売新聞」'78. 11. 21。

51) 「光明日報」'78. 3. 21 (呉甲豊)。

52) 同上 '78. 3. 21。

53) 『中国語文』'78. 2 (于夏襲)。

54) 「光明日報」'78. 2. 3 (第112期)。

55) 同上 '78. 4. 21。

56) 『中国語文』'78. 2。

𨮒⁵⁷、桂 一部の読みちがいの起こりやすい字の淘汰。この二字の繁体字は、蹲が zūn、鯁が jué と発音されやすかった⁵⁷⁾。ところが敦に代って屯を用いて、地𨮒𨮒と略し、蹲を𨮒とすべきでない⁵⁸⁾という意見もある。第1表(2)では尊が𨮒と略されているから、𨮒とすべきだとする。これはすでに「繁体字をマスターした人に対して考慮すべき⁵⁹⁾」だとして、同様の意見が出される。しかし現在ではむしろ、屯などより類推される音をとった方がよいのではなかろうか。

𨮒 字形の美観⁶⁰⁾ということが問題にされ、もしも下に横一を入れるなら、少し短くするか、少し上げるかあるいはもう一本入れて𨮒とするのもよいではないか、なども具体的に出される。長年海外に住む人の“来信”⁶¹⁾によると、これは屍体の尸を連想させ印象がよくないという。

この読者はまた“刃、𨮒”についても意見を出しているが、道理をとく道だ、なぜ刀の力を借りて道理をとくのか：𨮒は大きい白い板になっている、三面節約しただけで目鼻が全くない、と述べ漢字の理を破壊するという。こうした意見は、一面のみを強調することにより、文字発展の方向を見定めていないようにも思える。

𨮒 漢字の組立、構造を考えてみる。つまり均整がとれていて、美観上よいということから𨮒⁶²⁾と簡略化できないかという意見もある。その意味は、人がとばり(帳)の中で病気で寝ていることだという。だが病院関係者は、早くから𨮒などの“人民語”⁶³⁾を投書の形で提案していた。

𨮒、𨮒 これらはまちがいがやすい。“これはビルの中で座っていて決めたものだ”⁶⁴⁾という声もきこえる。

57) 同上誌 '78. 1, 63ページ。

58) 「光明日報」'78. 4. 21。

59) 同上 '78. 4. 21。

60) 『中国語文』'78. 2, 129ページ。

61) 「光明日報」'78. 4. 7。

62) 同上 '78. 4. 21。

63) 「神戸新聞」昭和47年2月9日、陳舜臣、藤堂明保対談：カ(ごめんだ) 𨮒(蔵) 𨮒(載) などの例もある。

64) 「光明日報」'78. 4. 21。

たしかにこの簡化法は、極端な筆画の省略により、符号の域に近づいている。それなら予、卩、冂も同様だが、それだけ音標文字への準備が急がれている、というわけだろうか。

𠂔、攴、予、夕などと同じく、筆画が減少しているのみか、字形がはっきりしていて、学びやすく、覚えやすく、見分けやすい。そしてこれらの簡体字はすでに大衆の間で広く流行していた⁶⁵⁾。

汗、汗 字形上からみると、いくつかの字は簡略化後、筆画は確かに減って、書くのには便利になったが、字形が似ていて区別がはっきりしない字も少なくない⁶⁶⁾。志と忒、讠と讠、迂と迂、忡と忡、纭と纭、阡と阡など7組の形声字である。その他に刀、刁、力、方、万の各組の字も注意が必要である。

令 元来 lǐng (量詞) と lìng (使令, 命令, 美好) 等の二つの音があったが, lìng の音読と年, 年数の新しい意味がふえた。第5期全人代の代表奚元令, 傅令仙の令は lìng か lìng か? 軍齡と軍令狀の軍令は区別のつかない同形語となった。工齡は工令と書き, 公令と聞きわけられない同意語になった。第1表172字のうち多義字が20増え, 多音多義字が15増した。これは20%を占めることになるから考慮に値する問題である⁶⁷⁾。

刃 易と易はよく似た偏旁だが, 統一的に処理されるのが一番よい⁶⁸⁾。56年に易だけが刃に簡略化され, 64年の“簡化字総表”でも易は簡略化されていない。“漢字正字小字彙”でも, 二字の区別が何回もなされた⁶⁹⁾。「二草」でやっとこの易を刃とした。これは利が多く弊害は少ない。ここで問題とされるべきことは, 易を刃と簡略化することが易を刃と簡略化することより20年もおくれたということである。

65) 『中国語文』'78. 1, 65ページ。

66) 同上誌 65ページ。

67) 同上誌 66ページ。

68) 同上誌 67ページ。

69) 賜 (賜) cì 右旁从易, 不从刃 (刃是易的簡体) (17頁); 錫 (錫) xī 右旁不从刃 (113頁); 易 yì 容易, 貿易 不作刃 (刃是易的簡体) (125頁)。

栢 これは第1表に出ているが、尙_{㉑-2}、缶_{㉑-3}はそれぞれ第2表の形声字、特徴字として簡略化されている。これは一つの字属として統一的に処理した方がよい。①缶の字形の特徴は明らかであり、像、椽は尙、栢と簡略化した方が覚えやすい。②缶と尙は筆画は6画だ。③もしも缶のみを処理するなら単独で記憶しなくてはならない⁷⁰⁾。類推でもって尙、栢と簡略化すべきである。

宀、宀 “簡化字総表”の2表で、寧は宀と簡略化された。脚注：作門扉之間解の宀（古字罕用）读 zhù（柱）。为避免此宀字与寧的簡化字混淆，原读 zhù 的宀作宀。（p.12）①宣は宀と簡略化された、渲染の渲はどう処理するか？ 宀から類推すると、宀となる。（演は宀とした）②宣に従う字はどう処理するのか？ ③zhùと読む宀はすでに宀と簡略化されている。この一族の宀苙貯苙はどのように処理するか？ 萱草の萱は苙となるが、蒙の簡体字苙と似る。苙麻の苙はすでに苙 zhù と略されている（新華字典）。苙—苙、萱—苙の矛盾はどう解決されるか⁷¹⁾。

さて他の字について、順にいっつか『現代中日辞典』⁷²⁾によってひろおう。炖_㉑dūn が登場する。炖肉（シチューを作る）などの用例である。孚_㉑fū は原字が卵をかえすとの意味だけであり、fú となって信実の意味が加わる。跤（もんどり）が交_㉑に、椒が茭_㉑になっているが、茭はまこもの芽の意味が加わる。尙_㉑は声符が gào で筆画は9画であり、イをつけるのならむしろ尙とした方が発音上は近い。四声のちがいで、铐 kào（手錠をかける）がそうした例として考えられる。

垚は恐らく羌族からとったと思われるが、qiāng から qiáng への類推はむつかしい。むしろ枪から声符を借りた方がよいのではないか。枪というように。あるいは彡や彡にすることも考えられる。垚の例は、もっともわかりにくい簡化法だと思われる。冏は罔王か姓にしか使えないから、それほど簡略化する必要性はない。罔でよいのではなからうか。肱はすでに「辞典」に出

70) 『中国語文』'78. 1, 67ページ（徐仲華）。

71) 『光明日報』'78. 3. 21。

72) 『現代中日辞典』光生館, 1961年。

されている。

北_ㄉ jì 冀の発音が yì ではないから、北では不適當だ。皆とでもした方が発音上は近い。願うという意味か河北省、姓などに使われるものである。申_ㄉ nánɡ は、筆画の最初の部分のみ採用したもので、妥当であろう。

D. 第2表について

甲. 同音代替字（72字）

第1表のとくと同様、この方法による簡略化は有力な「一種の方法」⁷³⁾として活用されている。顛_ㄉ、伐、戒、匡、辟_ㄉ、委_ㄉ、尉_ㄉなどのように、原字の声符のみを残した例。弁、代、刁、干_ㄉ、輝_ㄉ、呂_ㄉ、秒などのように、同音の筆画の少ない字を採用した例。煨_ㄉ、忌_ㄉ、衿、唯_ㄉのように、意味の近いものか筆画の簡単な常用字を適用する例などがある。そして多音節の単純語、擬声語、連綿語、音訳語などは、音声のみを残している。：都_ㄉ々（ラッパの音）、丁_ㄉ宁、宁_ㄉ苳、宥_ㄉ皇、专_ㄉ廷、岢_ㄉ武（おうむ）などである。

ところがこれに対する反対意見もあり、「かなり重大な欠点がある」として「完全には同意しない」⁷⁴⁾といわれる。

卞_ㄉ 鞭 biān を卞と簡略化するなら、弁と簡化される三つの原字（辨、辯、辯）も卞としたらどうか。なぜなら弁は古字であり使われぬものだという。たしかに後者は四声だからそれでもよい。卞子、卞打、卞策など必要でなく不合理だ、との意見もある。鞭は便⁷⁵⁾とも略せる。

孛_ㄉ bó 次の文例：“我们兴致勃勃地带着饽饽去渤海湾旅沈”では、孛が使われている。当面は意味の異なる同音字が三、四字以上ある時は、簡略化せずに「直接拼音で代替するように」⁷⁶⁾との提案もされる。手紙などでは、漢字に拼音をはさむ方法もとられているという。形容詞などの修飾語句や感嘆詞、助詞などに使ったらどうか。

彻_ㄉ 「辞典」に chè としてすでに出ているが、第2表の1では原字として

73) 「光明日報」'78. 3. 21。

74) 同上 '78. 4. 21 (宋連昌)。

75) 同上 '78. 4. 7。

76) 同上 '78. 4. 21 (蘭州棉紡厂)。

徹が書きもれのようなのである。彻头彻尾の彻。

代 “这些人中没有一个代表”⁷⁷⁾。これは戴手表をさすのか、人民代表の代表なのか、との疑問が出される。しかしこの場合、前者だと没有一个代表的で、後者は没有代表か连一个代表也没有というのが普通ではなからうか。“一位代表的代表”⁷⁸⁾をどう理解するのかともいう。前者の“表”は明らかに錶のことだろう。だが果してこのような文章が現実にかかれるか否。

刁 漢字は表意文字だから、現在の体系を保持しながら音素化することはむづかしい。同音代替により意味の混同が起こるようであれば、採用しない方がよい。さげすむような色彩のある字あるいは忌みきらう字などは多くは用いない方がよい⁷⁹⁾。刁像の字から、読者は元の形容詞“刁”(悪辣な)と混同するからよくないとの意見である。

第2表の脚注では、老雕(鷲)の雕は鸢と簡化するとあるが、それは不要であり、刁像のみを彫佻か彫尙とし、老刁としておいたら如何なものか。

赶 干か扞の方がよいとの意見がある⁸⁰⁾。しかし「辞典」では“のす”の意味で、赶と書くとされている。まして扞は、捍卫の hàn としても使われる。これも「辞典」に出ている。

付 傳隊長なのか副隊長なのか、区別がつかないという意見もある。しかしこれも言語の環境によって判断できる問題であろう。

匡 kuāng は五文字の代りをする形になっているが、次の例はわかりにくい：“你替我买个匡子”あるいは“你扶住匡子”，“把匡子拿来”。この匡子は筐(かご)なのか框子(kuāngzi, わく)なのか？ 上記の“付”と同様、言語の前後関係から類推、判断されるべき性質の問題ではなからうか。

连 ひき合いに出される例である⁸¹⁾。“你怎么连刀也忘记带？”これは一体鎌刀なのか、それとも別の刀で“连～也”の構文なのか、断定がむづかし

77) 同上 '78. 4. 21.

78) 同上 '78. 3. 21.

79) 『中国語文』'78. 2, 129ページ。

80) 『光明日報』'78. 1. 20.

81) 同上 '78. 4. 21.

い。もう一つの例文⁸²⁾：“他走得很急，连刀都丢掉了”。これは果して“是把刀都丢掉了，还是镰刀都丢掉了？”二つの意味にとれることは事実である。

釘 liào には釘吊儿（入口の掛け金）として「辞典」に使われているが、あしかせの意味の他に、この用例が追加されることになる。

溜 “手上有个溜子”では、“金戒指”の本意を体現しにくいから、溜がよいとする意見もある⁸³⁾。

垆 shāng は面積をはかる単位として「辞典」にある。東北では16亩（ム一）のことだという。原字の垆は、発芽に適する土壤の湿度のことでshāngと発音する。このあたりの字は常用字なのか、そして今日簡略化の対象とすべきものなのか、いささか疑問を感じる。

祿 にんにくのことだが、“我来买祿了！”は、“就由我来买吧！なのか”“我买吃的大蒜来了。”なのか、はっきりしないとの意見もある⁸⁴⁾。

仝 tóng は同（仝）と「辞典」では表現されている、童と同音だから代替は可能である。

欣 xīn は意味上鑫と近いから、同音でもありこれでよいと思われる。ただ意見としては、第1表の叢の例より考えると、鑫と簡化すべきだということもある。

骤 驟雨のzhòuだが、なぜ馬がいるのか、あっさりと全く別の意味の宙などを使ったらどうか。急の意味と時間（宇宙）は無関係ではないであろう。

咥 jiáodòng などの用法だが、とりわけこの簡略字は、右側が複雑で書きにくくまちがいがやすい。むしろ咬 yǎo という字があるが、それを採用し、多音同義語とした方がよいのではなかろうか。

乙. 形声字，特徴字など

𠄎₂ 𠄎，健と鍵は，建→𠄎によって類推できるから，𠄎，𠄎とすべきだとの意見がある⁸⁵⁾。その画数は15画，13画になり，形声字の欄に出されている

82), 83), 84) 注81) に同じ。

85) 同上 '78. 4. 21。

る字は6画、9画である。声符のみからすれば𠂔、𠂔でも問題はないが、むしろ建より類推して𠂔、𠂔とする方がよい。

斥 形声字の厦の簡体字だが、斥と混同しやすいとの意見がある⁸⁶⁾。同様に第1表の𠂔と𠂔₂もまぎらわしいが、これらは注意すれば解決できる問題である。まして斥は人口に膾炙している字だ。

𠂔₂ これはやめにして焊のままでもよいとの意見もある。嫌を𠂔₂にしてあるが、“貶義字”ということでも↑を使うなら、奸娼奴……なども一律に変えねばならぬとの意見もある。変えないとするなら、脚注の文句はない方がよい。そうするか同音代替で𠂔とでもした方が嫌にマッチするのではないか。

坩 yān ダムである。「ふるさとのダムから語る」という一文がある⁸⁷⁾。似ていないから不満を感じたという。坩は坩にも劣り、鉛の簡化字のようだし、𠂔と略したらどうかとの提案は、地名として大衆的基礎があるという。筆者は坩でよいと思う。

𠂔 𠂔₁と結合して、蜂蜜を表わすが、峰密とも理解できる。特徴字である。ところが形体上の区別が小さいと、効果がよくない例がある。𠂔₃ jìは無(無)とよく似ている。𠂔とは、人間が腹をいっばいつまらせて、ウーンと後ろにのけぞった姿を表わす会意文字である⁸⁸⁾。形声字の𠂔₂ yōuは凶、凶等とよく似る。𠂔は再簡略化である。そして𠂔は、第1表では𠂔、2表の形声字では𠂔となっていて、この象のみが上部の𠂔をとった形式になっているが、これは統一した方式をとった方が好ましい。

𠂔₄ 輪郭字の一つだが、これは筆画も多く、書きにくい。菩 pú 薩の pú と混同しやすい。𠂔というふう到大衆は簡略化しているという⁸⁹⁾。むしろ大衆の案の方が書きやすい。

𠂔 草書の楷書化の一つだが、小学生にはマスターしにくい字だから、𠂔

86) 同上 '78. 1. 20.

87) 同上 '78. 5. 19.

88) 藤堂明保『漢字入門』、日本放送出版協会、1977年、162ページ。

89) 「光明日報」'78. 1. 6.

とか苟にしたらどうかとの意見がある⁹⁰⁾。

𠂇⁹¹⁾、𠂈 この二字もこの骨組が美観上よくない、片方に倒れそうな、重心がかたよっている感じがするという意見がでている⁹¹⁾。𠂇と同様、わかりにくい簡略体である。

穴⁹²⁾。会意文字の一つだが、地方によっては宀とも略す。人によっては穴と混同するから、討論すべきだという⁹²⁾。宀として普遍的に使われているという意見もある⁹³⁾。それはしかし jiā と xià の発音上の区別の少ない地方であろう。

刈⁹⁴⁾。符号字として、脚注：刪刈，刈除等の刈仍读 yì とある。割除は刈除 yìchú と読みかねない。刈除瘤子と読んでは不合理だ⁹⁴⁾。𠂇を使うならむしろ剝削などが適当ではないか。

さて単独では字となれない簡化偏旁のうち、㇇→㇇についてみよう。部首排列の“新華字典”（1955年版）によると、㇇の56、㇇の字が33で、合併後重複するのは次の4組である⁹⁵⁾。

袂 xiān 袂教（一种宗教名）	袂 ǎo 袂的簡化字
祇 qí 古代称地神	祇 qí 僧衣
止 zhǐ 止	止 zhī 丹黄的绸
祛 qū 除去，驅逐	祛 qū 袖口
襮 ráng 迷信的人祈祷消除灾殃	襮 ráng 襮，脏

合併後、袂、祇は多音多義語となり、祛、襮は多義語となった。こうした簡略化は利が大きく弊害は少ないから、歓迎してよい。

90) 同上 '78. 4. 21。

91) 同上 '78. 4. 7。

92) 『中国語文』'78. 2。

93) 「光明日報」'78. 1. 6。

94) 同上 '78. 3. 21。

95) 『中国語文』'78. 1, 64ページ。

E. “約定俗成、穩歩前進”の方針

これまでに第1表, 2表で問題とされたものについて, 賛否あわせて一部分検討してきた。新たな事物の出現には, 当然問題があり, その問題=矛盾を解決する過程で, 比較的正しい, 客観的法則に合致した, しかも一般大衆から受け入れられる成果が得られる。

78年2月, 茅盾(マオ・トゥン)は「文字改革の仕事は新たな重大な一步をふみだした⁹⁶⁾と題して文章を書き, この事業の前途を見通している。ここでは, 国務院が「二草」を批准して公布した。漢字簡略化は, 第二次方案発布の時になった, と述べられた。そしてまた大衆の創造した簡化字を総括し, 全国的に流行させること, 筆画の多い常用字を簡略化することだとして, 漢字の簡略化は当面依然として第一の任務だ, と強調している。しかしきめ細かい仕事をし, 成果を急ぐことのないようにとの提言もされている。

新簡化字に対する反応は, 55年の「草案」のときと比べ, 関心の度合は強烈なものがある。ウルムチの小学生は“もっと簡略化してほしい”と言い, 河南省のある人は喜びの詩を書いた⁹⁷⁾。

抓纲治国形势好, 千古繁字换新兒(貌)。

迈(邁)出改革新步伐, 亿(億)万人民齐欢(歡)笑。

関心の度合は, “読者の来信”にも表われている⁹⁸⁾。

55年1月の草案		77年12月の草案	
2月末	2,000通	12月中	8,348通
半年間	5,000通余	最も多い日 ¼(土)	629通
		三カ月半	1万通以上

その上今回は, チベットからの来信を含め, 29省, 市, 自治区から投書が寄せられた。その他華僑や台湾同胞からも通信があったという。77年12月中に

96) 「光明日報」'78. 2. 3。

97) 同上 '78. 4. 7。

98) 注97) に同じ。

寄せられた8,000余通についてみると、次表のような構成になる。

工業交通，財政貿易	3,500余	} 70%強
解放軍部隊	2,500余	
人民公社社員	60~70	
幹部，知識人，科学技術要員	} 2,000余	20%余
教師学生，知識青年		

これらの数字は、関心が強まったということを示すと同時に、問題をそれだけ含んでいる面をも意味する。

提起される意見の中には、「知らない字が多すぎる」という反応もあって、ここに一つの統計を用意する。第1表の“簡化字の試用情況”について、「人民日報」の77年12月21日~27日分、「紅旗」の78年第1期による。

99)

	使用字総数	簡化字	比率
人民日報（7日間）	248,000字	のべ9,000字	3.63%
紅旗（87ページ）	17,000字余	のべ3,100字	2.60%

字型鑄造量の不足や植字，校正要員の未熟さもあって、「人民日報」では、男と量が同時に使われたり、「紅旗」でも影，具などと繁体字が用いられたりした例もある。

この数字からもわかるように、簡化字は文章全体に分散しており、出現回数もそう多くはなく、文章の前後関係から判読できるのが普通のようなのである。

それにしても改革の過程には、多くの意見が出される。漢字のもつ多くの欠点ゆえに、改革は「客観的發展法則に合致している」のだが、その観点において「使用する大衆との間に認識が統一されていない」¹⁰⁰⁾という意見もある。56年の簡体字は、多くが民間で流行した通用字だった。だから今回は、

99) 同上 '78. 2. 17 (第113期) より作成。

100) 『七十年代』(香港)'78. 9, 68ページ。

大衆的基礎の少ない字については、()をつけそこに原字を注記する方がよかった。そして改革の過程では、絶対化を避け、字典、百科全書の編さんなども考慮していくべきある。

主な簡略法として考えられる同音代替についても、その優越性が語られると同時に、注意すべき点が指摘される。例えば、“別采它！”とした場合、採、睬、睬のうちどれなのか、意味上の混乱を起こさないことは、原則的なことである。ではその優点は何だったか¹⁰¹⁾。①新たな符号や形体をふやさない、②漢字の基本的な形音義の体系を乱さない、③常用の、字形の簡単な字で、見慣れない複雑な字にかえる、④知らない字を淘汰し、字音を読みやすくして、共通語の普及に有利である。話にはその環境があり、単に字のみをみずに、言葉から考えること。そうすると「語音重視の習慣を養うことができる」¹⁰²⁾のである。それゆえに、同音代替が必ず意味の混乱を招く、という批判は当を得ていない。

しかし「総じて欠点が優点より多い」¹⁰³⁾と主張するむきもある。後世の人が古籍を読むのに、困難をもたらすという。それはその限りにおいては存在するであろう。だが①大衆的基礎があり、少数の主観的“創造”と決定によらず、②字義を厳格に審査決定し、③元の繁体字と一定の連係のある同音字を採用する、等の注意を怠らずに実行すれば、欠点は必ず克服されるであろう。

現在日常的に通用している約1万字から常用字を選択するのは、一つの課題であるが、表音機能を十分発揮していない形声文字の音符を改良しようとする試みも度々なされてきた。しかし実用にはほど遠いものだった。適当に仮借を運用することである。

「実際の必要から出発して、先人が文字の発展過程の中で蓄積したいくらかの経験を総括することだ」¹⁰⁴⁾。最大限に漢字を簡略化する、とりわけ数量

101) 「光明日報」'77. 12. 2 (李如龍)。

102) 同上 '78. 4. 7 (殷煥先)。

103) 同上 '78. 4. 21。

104) 于在春「論漢字的簡化」, 通聯書店(上海), 1953年, 80ページ。

面から簡素化することだ。それにはやはり「同音代用を推進していく」¹⁰⁵⁾ことが中心となるであろう。約定俗成（一般に使われて始めて定まる）、穩歩前進（落ちついた足どりで前進する）の方針をかかげて。

II 四つの現代化のなかで

「四人組」以後の中国は、新体制のもとで四つの現代化への段どりを各分野でおし進めている。文字改革もまた四化実現の一環として、「徹底されて実施されて」¹⁾ゆき、社会生活全体に対する影響を及ぼしていくであろう。

1. 再び「二草」の問題にふれて

78年3月21日付「光明日報」は、「文字改革」欄（第114期）で“編者按”をつけ、六つの問題点を提起して討論をよびかけた。すなわち：

(1) 字数の精選と筆画の減少の関係をどう正しく解決するか？

(2) 流行している簡化字を主として用いることと、法則的な簡化法による矛盾をどう解決するか？

(3) 方言地区で流行している簡化字を用いることと、共通語の読音との矛盾をどう解決するか？

(4) 過去にすでに簡略化された字は、再度簡略化する必要があるかどうか？

(5) 偏旁の類推は、一定の範囲内に制限すべきか？

(6) 漢字簡略化の仕事は、成熟した部分について公布するのか、それとも漢字に対して全面的計画をして方案制定の方法をとるのか？

これらの問題について、初歩的意見を述べたい。①筆画と字数の問題は、二つの事柄がそろって、漢字の簡略化を意味する。どちらの側面とも簡略化

105) 中国文化叢書 I 『言語』、大修館書店、昭和42年、406ページ。

注1) 日中友好協会「日本と中国」、'78. 2. 25 長谷川良一“北京通信”によると、北京のテレビが二種類とも草案説明の講座を数回行い、画面の文字に第1表が試用されている。第2表については、各単位で説明会がもたれ、人々の意見が求められているという。

する作業を進めることにより、それは解決へ向かう。

②流行がどんな範囲なのか、ごく一部なのか、かなりの地域、業種にまたがるのか、それが一つの側面である。流行がごく一部業種とか地域であれば、全国的に通用させるには問題をはらむ。その場合は法則的な、すなわち科学的法則に依拠する方法が説得力をもつ。

③共通語の普及の観点からみて、方言による影響はへらしていく方が有利である。

④それは使用状況による。大して筆画がへるのでもなく、使用頻度もそう多くないのであれば、不要だ。その逆であれば、やはり再度簡略化したらよい。それもごく短い5年、10年単位でくり返すのはよくない。

⑤制限する必要はない。

⑥全面的、全般的計画は、当然委員会がもつべきである。しかし公布については、成熟した部分から何回かに分けて行ったらよい。そしてたえず意見をきく体制をとることが大切である。今回の「二草」発表は、問題を大衆の面前に投げかけたので、その点でよいことだ。しかしそれぞれの字にもう少し説明をつけたら効果があったのではなかろうか。

“約定俗成、穩歩前進”の方針がよく言われるが、それはこういうことだ：²⁾ 既存の習慣に気をつけて、あらゆる漢字を徹底的、全面的、系統的に簡略化することを意味せず、一回で簡略化してしまわずに、グループ毎に簡略化していくことである。この方針は夙に、58年の周恩来「報告」で提起されている。

「二草」の説明('77. 5)では、簡略化が迫られている字を42あげている。そして10画以上の字がまだ1,300あると述べている。42字については、簡略化の方法についての案はともかく、読者のために拼音だけでもうってほしかった。基本的には、同音代替の方法が採用されるであろう。なぜならその道こそ音標文字へ向かう準備とも考えられるからだ。

2) 陳治文『漢字常識』、爾雅社出版(澳門)、1977年、47ページ。

2. 日本の略字について

77年秋、「漢字の略し方、日中で話し合い」³⁾ということが新聞で報道された。日中友好議員連盟の名前で、中国側同意、近く検討委設置としている。この件は、日中国交正常化（'72. 9. 29）前からも問題になったことがあり、76年には国語審議会の代表が訪中、中国側にも話を出したという。

77年12月、中国で「二草」が発表されると、21日付各紙が紹介したほか、テレビ⁴⁾でも「文字改革」の経過と「二草」の紹介が行われた。そして実情に即した漢字の改革は、日本にとっても「大きな宿題」だとの受けとめ方があるかと思えば、「ちょっとした思いつきで貴重な文化遺産を失ってはならない」⁵⁾という一面当を得ており、一面無知ぶりをさらけだしている意見もみられた。文化遺産の問題については、当事者は十分に考慮しているはずだ。世紀の大事業を個人の「ちょっとした思いつき」のようなとり方をするところは、日本におけるこうした問題に対する国民の側の対処のさせられかたからくるのではなかろうか。

文部省は、昭和52年7月23日付「告示」第155号で、教科書体活字の「標準字体」を発表した。例えば「厶」の字形（「官報」による）では、A. 会、B. 広、C. 私、絵などだが、Aは二画にみえるし、Bは離れているか続いているか不明である。Cの字形が最もよい。これは漢字の正誤に全く関係なく、一点一画を忠実に覚えさせ、漢字恐怖感、憎悪感を抱かせるだけだともいえる。現場の漢字教育をさらに悪化させるものとして批判⁶⁾をうけている。

78年2月、略字化をめざした「国字略字化懇話会」（仮称）⁷⁾が結成集会を開いたようだ。そして匚（医）、衞（衛）、働（働）など、約300字の草案を提案したという。ところが中国の“略字化”に追随する形にならないようにと、国語審議会などには慎重論が多い。また反面では、当用漢字を増やした

3) 「サンケイ新聞」'77. 9. 19。

4) NHK TV '78. 2. 11 夜10:15。

5) 「読売新聞」'78. 1. 7。

6) 原田種成「小学校の“標準字体”を批判する」、『言語生活』、筑摩書房、1978. 11 (323号)。

7) 「朝日新聞」'78. 2. 23。

方がよいという意向が強い。懇話会が中国の「簡化字総表」(1964)と対比して見て、約60字が全く同じで、30字ほどが似たものだという。

中国語学研究者・教育者代表団⁸⁾は、66年趙安博(チャオ・アンポー)氏から「略字の調整などとんでもない話」だと言われた。日中双方の簡略化の方向や方法は異なっており、そこからは当然、完全な統一作業などは不可能であろう。(たまたま同一文字が生まれることは、一時的にはあり得ても)

郭沫若(クオ・ムオルオ)は、72年3月、広、沢、芸などの日本字を例にあげながら、簡略化漢字にふれて述べた：⁹⁾いく人かの日本の友人は両国の簡略化漢字を統一したいと考えているが、私のみたところ、恐らく実行はむつかしいだろう、と。このように統一の可能性を否定している。78年2月8日付のわが国の新聞はさらに、文字改革委研究組責任者喬風(チャオ・フォン)氏の個人見解を發表している。「二草」の發表と喬氏の談話は、「事実上両国漢字の統一論争にピリオドをうったもの」¹⁰⁾と考えられている。

統一が必ずしもよいとは限らない。中国における方向・方法、その方針・政策を他山の石として、日本は真剣にみつめ、学ぶ姿勢が必要ではなからうか。中国の文字改革は、毛澤東、周恩来などが先人の経験をもまえて総括した音標文字の方向へと進むであろう。そうすればなおのこと、日本における漢字は、はるかかなたの後方に、とり残される運命にある。

3. 文字改革の方向・意義

78年6月、周有光氏は「光明日報」¹¹⁾に、「漢字簡化問題の再認識」という一文を出した。これは20年来の変化、筆画簡化の効果と漢字整理の方法の諸問題を語っている。そして周氏が聴取した意見を二点に帰納した：①「二草」は欠点が多く、成熟していない。②事前の大衆からの意見聴取が広範でな

8) 「文字改革・国語問題あれこれ上下」、『アジア経済旬報』中国研究所、1966年6月中旬号、下旬号(No.650. 651)、藤堂明保団長一行五名。

9) 『紅旗』'72. 4。

10) 横川伸「今世紀内に日本を追い越す」、『アジア経済旬報』中国研究所、'78. 4 (No.1075)。

11) 「光明日報」'78. 6. 16 (第120期)。

く、発表するや大量に試用された、突然の襲撃だ。この二点は正すべきであり、また正することができる、と。

A. 変化について

周氏は、20余年前は「多数の労農兵が熱烈に歓迎した」し、今日は「少なからぬ労農兵が歓迎を表明しているが」強烈な異なる意見が知識人だけからでなく出されている、という。そして単に「個別の漢字の簡略化技術の欠点から理解できず」、「漢字を知っている人が“既得利益”を守るために、この現象があるとも簡単には言えない」としている。大衆の文化生活と漢字簡略化の社会的効果から観察しなければならない、という。

確かに大衆の文化生活には変化が生じ、簡化字の社会的効果も20余年前とは異なる面があるであろう。ましてや「20年前は文盲が識字者数を圧倒していた」のである。今は識字者数が大いに増え、それが逆転していることは事実である。そして漢字をものにしたあとは、「字形の規範化を希望し」、「しばしばの改変、しばしばの学び直しをきらう」のが自然の心理だとする。しかしここでは、二つの事柄が混同して提示されているのではなかろうか。字形の規範化を希望するのは当然であり、そのために何百万、何千万という人の意見が集められて、簡化字が決められている。第1次の「漢字簡化方案」「決定には200万人もの人びとの意見を求めた。もっと深く大衆の中に入るべきだった」¹²⁾という委員会の発言があり、「二草」も1,500余万冊¹³⁾が印刷されたといわれる。

ところが後半の「一再改変、一再重学」とは何を意味するのか？「二草」は第4次、5次の改変ではなく、学び直しでもない。それは単に解放後2回目の草案の提起なのだ。意見を求めるために出されたものであり、改変が確定するまでの準備作業にすぎない。確定したら学んだらよいのではないのか。何もしばしばの事ではない。2回目の改変と学習である。

次に、20余年前の方案は約定俗成の簡化字だが、「二草」は「約未全定、

12) 『中国語』大修館書店、'75. 12。

13) 『中国語文』'78. 1, 62ページ。

俗未全成」だから首を横にふる人が多いのではないか、という。これも第1表と第2表では、若干その性質がちがうのであり、一概に言い切ることはできない。ならわしは未だ定まらず、大衆化は未だ成らずという点では、多くの具体的字が含まれるかもしれない。しかしそれはまた角度をかえてみれば、そこには様々の独創があり、検討する材料が与えられているのだ、と受けとるべきではなからうか。周氏はまた「この20年来の实践により、簡略化についての効果を全面的、現実的に評価し直すべきことを認識できた」と述べているが、その結論は、効果がなかった、ということであろうか。中国語を学ぶ者の立場からすれば、とりわけ簡体字の恩恵を受けたと痛感するのである。北京語言学院の留学生は語る：¹⁴繁体字は少しの隙間もなく、眼をそこない、頭を痛める。一つの繁体字によって、頭がぐらぐらして目がくらむのだ、と。それにもかかわらず、“見た目がよい”（好看）ことを重んじ、“使いよい”（好用）ことを非難する教師もいて、二つの考え方の違いが存在する、ともいう。

漢字は演変性（進展変化）と穏定性（安定性）の矛盾の統一体であり、かなり多くの時期は、安定性が変化性よりも強く、20年前は人心が変化を思った（人心思変）が、今日では人心は安定を思っている（人心思定）のではないか、と指摘されている。

これはむしろ逆ではなからうか。時には安定性が変化性よりも強く、かなり多くの時期、変化性がむしろ安定性よりも強い、と考えるべき性質の問題ではないか。大衆は、生産闘争、階級闘争、科学実験の实践の中で、たえず文字の変革を志向し、求めて、実行しているのである。静止した状態が何年も何十年も続くものでない。遠い文字改革の歴史からみたとき、「人心思定」というのは、まさにごく短い歴史の一段階、一段落の期間にすぎないのではなからうか。変化＝演変性を否定するのは、規範化のみを求める思想だと言えないか。

14) 「光明日報」'78. 2. 3 (王学作)。

B. 筆画簡化の効果について

「筆画の簡化は、有利でなく弊害がなくはない」のだという。「筆画が簡略化されれば、形の似たのがますます多くなる。声符を新しく作れば、声調の正確さを期するのが困難となる。同音代替だと、意味が混乱しやすい」。筆画を簡略化して、もしも読音の繁雑化、意味の混乱、形体の見分けにくさなどの現象を生み出すようであれば、得るものより失うものが多いということである。「もしも」……ということであれば、可能性として存在するだろうが、「筆画越簡，近形越多，新造声旁，声調難。」「同音代替，意義易混。」などの前後関係は必ずしも直線的に成立する、とは思えない。

ある人は簡化“十誡”をあげて、次のようであればよく、逆であればまずいという：

- ①約定俗成（一つの名称が一般に使われるようになり普遍化する）。
- ②新字が原字と比べ、輪郭が似ていて、識別しやすい。
- ③形の近い字をふやさない。
- ④書く時に他の字と混同しやしくない。
- ⑤一字で多音，多声調にさせない。
- ⑥新造の声符が正確に音・声調を表わせる。
- ⑦同音代替は，字音と字の声調が同じでも意味の混乱がない。
- ⑧草書の楷書化では，筆画形式をふやさない。
- ⑨元来筆画の格好のよくないものをよいものに改める。
- ⑩常用字を簡略化する。

もしもこの十誡がまもれるなら非常によいことだ。現在は，このうちのいくつかのよい側面を強調する形で，作業が進められているとみてよいだろう。

ここではまた，重大問題（・は原文）として，簡化字を学べば，繁体字を学べないか否かの問題が未解決だ，と述べられる。新簡化字が公布されれば，それ以後はその字が現代字となり，繁体字は以前の字として扱われるであろう。学ぶ必要のある人が学べばよい。文献資料は，「古くから漢字を知っている人によって，責任をもって保管される。文字の改革は，古代文化と史料

の保存にとっては、何ら影響を及ぼさない」¹⁵⁾のであり、繁体字についても同様である。負担といえば負担だが、二種の字の併用時期を経るなかで、一般的には解決される問題である。

「二草」が慎重に修正され、方案として定まった後には、漢字の筆画簡化はこれで終りとする、との多くの人の希望があるという。それはもっともなことである。50年、100年後を問わないのであれば。そして一通り作業が終った段階で、全面的な整理を行うことである。

C. 整理の方法について

甲) “五四”以来の白話文より審査し、“現代漢字表”を定め、今後の現代漢語出版物用字の一般的な範囲とする。

乙) 現代漢字から3,000字位を選び、現代文字機械（電子計算機を含め）の標準技術用字とする；3,000字以外は“同音字代替”か“漢語拼音代替”とする。

丙) 文盲一掃用の“常用字表”を修正し、“小学用表”を真剣に規定する。筆画の簡略化、漢字の整理、標準技術用字の規定等は、いずれも四つの現代化にとって漢字の抵抗力（阻力）をほんのわずかにへらすにすぎず、四つの現代化に貢献するなど話にもならない。（・は原文）そして周氏は、貢献するには、まず第一に漢語拼音を補助文字（・は原文）として利用することを研究しなくてはならない、という。事始めに漢字の応用が不便な場合に应用することだ。新愚公曰く：飛行機に乗って飛んでいく（拼音と漢字の併用をさす）。老愚公がそれを運び去る（漢字を廃棄すること？）と言ったのに対して答えたことばだ。

以上の漢字整理の方法問題について、筆者は周氏と同感であり、賛成する。しかし前半で述べられた変化、効果の問題などいかに筆のタッチが異なることか。とまどいを禁じ得ない。

ここで乙)の標準技術用字についてふれると、中国では先進的な技術と設

15) 張世祿『漢字改革的理論和实践』、文字改革出版社、1957年、27ページ。

備を採用して、高効率、自動化した高度の機械化実現が急がれている。資料によると、「一台の計算機は10年で、8,532の漢字を使い、そのうち最も常用のものはわずか1,857で、常用字は2,068だった。普通の中文タイプの文字盤は2,450字である。」¹⁶⁾また「高速度印字装置は、あるものは1分間に136字、2,700行の漢字や漢字まじりの文章を印字する」¹⁷⁾ようになっている。

ニュースによると、わが国では漢字読み取り電算装置がとくに開発され¹⁸⁾、2,400字を1秒間に20字のスピードで解読するという。

このような機械化の時代によりよく適合するには、筆画を簡略化し、複雑な字を用いないことだ。そしてローマ字つづりのような音標文字にすることにことはない。「英文タイプは毎分最も早くて90字打てるが、漢字は最も早くて32字」¹⁹⁾打てるだけだという。もう30年も前の話だが、ジュネーブ会議やAA会議の時にも、中国の発言原稿は一度翻訳して何時間後にやっとなどき、受領後また漢字に翻訳しなければならなかったという。その非能率性は、目にあまるものがあった。

D. 漢字の前途

1958年の周恩来「報告」は、漢字の前途がいかなるものかという問題について、今は急いで結論を出さないとしている。しかし文字はどうしても変化するものであり、漢字の過去の変化でそれは証明できる。将来必ず変化するのだ、と述べる。

ここでいくつかの国・地域における文字改革の事情を一瞥しよう²⁰⁾。

○ルーマニア 1904, 1928, ギリシャ文字→ローマ字

16) 「光明日報」'78. 5. 5 (王廣義) 日本の高千穂漢字情報処理機は256の鍵盤で3,072字をコントロールするという。

17) 林大「漢字の問題」、『講座日本語3, 国語国字問題』, 岩波書店, 1977年, 119ページ。

18) 「読売新聞」'78. 11. 11 光学文字読み取り装置とコンピュータからなるシステムで、特許申請など、邦文タイプを義務づけられている申請書類で利用可能、99.9%以上の正確さだという(日立中央研)。

19) 張世祿, 前掲書, 36ページ。

20) 平山昌夫「国語政策」、『講座正しい日本語I巻』明治書院, 昭和46年, 277ページより作成。

- トルコ 1928, アラビア文字→ローマ字
- スワヒリ語・マレー語 アラビア文字→ローマ字
- モンゴル民族 ウイグル文字→モンゴル文字。1921年人民共和国成立, 31年ローマ字でモンゴル語を書写する案を採択, 40年ローマ字を新モンゴル文字にする決議がされたが, ソ連の影響が強いため, 42年モンゴル文字→ロシア文字(方案公布)。
- ドイツ 第二次大戦後, ドイツ文字(かめのこ文字)→ローマ字
- 北朝鮮 建国後, ハングル
- 韓国 71年漢字廃止の方針, 漢字とハングルの併用
- 中国 58年「漢語拼音方案」を公布(ローマ字をルビとして公式に使うようになった)

漢字の簡略体は, 文字の本来の意象を拒否するものだが, 一度作られると, 字形はそこから急速に崩れてゆく。漢字簡略体は「久しい間の慣用から自然に作られてゆくべきもので」²¹⁾無原則に字形を改めて作るべきではない。それは漢字自身のもつ必然性といえよう。歴史上の変化をみても, 漢字の変化は一つの自然の流れであり, 今日簡体字も「当然あるべき道をたどったもの」²²⁾といえるであろう。

そして将来において, 表音化の原則を貫き, 「表音文字の全面採用は21世紀をまたねばならぬ。……漢字にかわる中国の文字は, 現在の拼音だと推定するのは常識」²³⁾だとされ, 「将来は漢字をやめてローマ字専用にしようという方針とされている」。²⁴⁾しかしそれは「漢字を何らかの方法で保存し, 活用するか, ……全面放棄するか, そのいずれか」である。「漢字の放棄」をして「文化遺産そのものを廃絶する」²⁵⁾ことはないのである。なくすのではな

21) 白川静『漢字百話』, 中央公論社, 昭和53年, 149ページ。

22) 鐘ヶ江信光『中国語のすすめ』, 講談社, 昭和39年, 51ページ。

23) 倉石武四郎『中国語五十年』, 岩波書店, 1973年, 139ページ。

24) 平井昌夫, 前掲書, 278ページ。

25) 白川静, 前掲書, 243ページ。

く、「むしろ古来の漢字の変遷の歴史を一層深く知る」²⁶⁾なかで、長い中華民族の歴史が経過するのであって、同時に音標文字作成の作業が進められるだろう。

～二歩に分けて歩む～

漢字の簡略化と文字拼音化の仕事は、一つの事柄として混同することはできない。「漢字簡略化の基礎の上に拼音化が拼音文字に転化できると希望することもできない」²⁷⁾二つの仕事は、文字改革全体の過程のなかで、互いにつながりをもつ段どりであり、計画のなかで前後して実施するものである。漢字それ自体が拼音文字に自然に発展することはできない。

呉玉章（ウー・イューチャン）は「漢語拼音方案草案」の報告で述べた：²⁸⁾我々は漢字改革を主張するが、決して漢字をなくすことを主張しているのではない。漢字は永遠に存在するだろうし、永遠に学ぶ人がおり、使う人がいる。将来拼音文字が実行されても漢字はやはり存在するのだ、と。「一度に拼音文字で漢字に代替することはできない、拼音文字を実行したあとでも漢字はなお少数の人の学習と研究の対象となる」²⁹⁾のである。

郭沫若はまた、文字の簡易化と現代化を説いたが、それは「漢語拼音方案の基礎の上に逐次拼音文字を実現する」³⁰⁾ことである。それは数億の人口から出発し、広範な大衆に便宜を与え、そして便宜を“後世の子孫にも留める”という立場・観点から出たことばであった。「拼音化の実現は、決して軽々となしとげられる事柄ではない。幾世代もの人々の連続した努力奮闘が必要」³¹⁾だと考えられる。まさに漢字における一大変身～漢字の簡略化、共通語の普及および漢語拼音方案の施行など～が普遍化されるなかで、拼音文

26) 三沢玲爾「漢字の字体はどう変るか」、『中国語』'78. 3 (No.223) 筆者は「簡化字を理解し、また合理的に……改良するため……知ることがなによりも必要なのである」と結論づける。

27) 張世祿、前掲書、52ページ。

28) 中国人民政治協商会議全国委員会常務委員会第十八次會議（拡大）上の報告。

29) 「光明日報」'78. 1. 20 齊力、李嘉耀（復旦大学中文系）。

30) 同上、'78. 7. 15。

31) 同上、'78. 2. 17 上海師範大学中文系。

字への具体的前進³²⁾がみられるであろう。ただ方向を堅持しさえすれば、「拼音化の目標は必ず実現できる」³³⁾のだ。

周恩来は二十数年前、世界の各民族の文字形式は、将来どうしても逐次統一されるであろうし、ましてや言語も最後には次第に統一されるであろうと、はるか人類未来の展望について語った。文字改革が全中国人民の一大事であるからには、その政府のとり段どりは慎重を期したものであろう。

一部の省、市、自治区では、文字改革の指導機構ができ、77年12月以来78年2月までに成立したところは、陝西、湖南、四川、貴州、河北、浙江、チベット、河南等である。江蘇、山西、寧夏などは教育局による責任指導が決定され、遼寧、吉林、黒竜江、雲南、山東および安徽等も機構の設立を決めた³⁴⁾。解放軍総政治部も部署配置を行った。広東省は、主任1、副主任4、委員10人で、省教育局工農業余教育処と共同事務室を設け、任務を明確に打出して、指導機構を成立させた³⁵⁾。

III 結びにかえて

本稿では、漢字の簡略化問題に的をしぼって考えてきた。時期的には、78年12月の中共11期3中全会が党の活動の重点を現代化建設にむける、と決定した以前の事柄が中心であった。社会では、「実践が真理を検証する唯一の規準」という論調が出て、毛澤東の神格化に一石が投じられた。

50年代、60年代とあらゆる方針、政策は、“神”の一声によって決定されたようだ。今でこそ文革も大躍進も罪名を科せられるが、当時は疑う余地の

32) 「読売新聞」'78. 11. 21 中国政府は、人名と地名のローマ字つづりを漢語拼音字母による表記に統一、使用することを決定した。今後英仏独西エスペラント語を含むローマ字アルファベット使用のすべての言語に適用される。中国の公式文書に関する限り、例えば TENG HSIAOPING から DENG XIAOPING (鄧小平) にかわってしまう。

33) 言兵「漢字的簡化」、香港『大公報』'77. 12. 28。

34) 「光明日報」'78. 2. 17, '86. 7. 12。

35) 同上, '78. 5. 19。

ない正しいものとされた。ごく一部の人を除いて、幾億の民が右向け右をしたのである。

こうしたことは日本の歴史にもあった。「15年戦争」といわれる日中戦争に始まる悲劇への道は、45年8月の敗戦まで続いた。総動員で、左向け左のままっ走ったわけだ。国民全体に戦争を阻止する知性がなかった。情に流されて、理もなく、美もなく、まっしぐらに破壊の道を歩んだわけだ。

人間には、本来破滅に向かう共通した面があるのだろうか。それとも教育により、学習により、異なった道を歩むことが可能なのか。科学技術のたえまない進歩は、人間を機械化した側面がある。機械に合致せずして、21世紀を迎えられないような感さえ覚える。人類はしかし、自らが操るべく生みだした機械にふりまわされてはならない。破滅の世界を阻止すべく、徳と智のひろがりか今日ほど待たれる時代はない。

知識のみが重要ではない。しかし中国の児童生徒は、わが国の子供たちよりはるかに多くの漢字を習得する必要性に直面する。漢字のみが正規の文字であり、それを読み書きできなければ、意思表示が不可能なのである。国家教育委員会（文部省に相当）の規定によると、6年制小学生の識字量は次の通り：¹⁾

1年生	630	4年生	2,677
2年生	1,513	5年生	2,935
3年生	2,286	6年生	3,190字

わが国の教育漢字は、996字であり、その上2種類の仮名を使うことができる。子供の字を覚える負担が極端にちがうと同時に、中国の子供たちは、3倍以上も多くの字から豊かな文化を学んでいるのかもしれない。

ピンイン（拼音）といわれるローマ字つづりの習得とその法的地位確立が期待されるわけがここにある。せめて、日本式の漢字+ピンインの文章が実用化されてよい。

注1)『語文建設』86年第1・2期，9ページ。

さて、簡略化をさらに進めるための「二草」は、「数年来、くりかえし何回も修正し、前後していくつかの修正方案を作った。広範に意見を求めることを基礎にして、最後に111の簡化字を収めた修正方案を作った。この簡化字を公布するかどうかについて、各界の意見の食い違いが大きかった。この問題は複雑だが、人々の現行漢字の応用についての影響がひき続き生じないようにすべく、できるだけ早く適切に処理しなくてはならない。」²⁾

今年1月6日開幕の語言文字工作会議で劉導生(リウ・タオション)・国家語言文字工作委員会主任は、上記のような報告をした。また「草案の作成と発表は、成功を焦ることによりミスをしでかしたのであり、戒めとすべき」³⁾だとも述べた。8日間にわたる全国会議は、何を結果的には残したか。

「草案は、簡略化字数が多すぎ、試用が急すぎ、若干のものは簡略化が合理的でなく、試用中の効果もよくなかった。各方面の必要を考慮し、利害大小をはかりにかけて、現在再度正式に第二群の簡化字を公布するのはよくない」⁴⁾というのが陳章太(チェン・チャンタイ)副主任・秘書長の回答である。

当面社会では、繁体字がみだりに使われ、略字をむやみにつくり、誤字やあて字を書く現象が非常にはなはだしく⁵⁾、多くの大衆の不満をかっている。そのため言語文字の規範化と標準化の促進ということが強調される。言語文字工作の主要任務には、漢字簡略化は単独にはとりあげられず、現行漢字の研究と整理という任務の中に包含されることになった。85年に、文字改革委員会から語言文字工作委員会に改称されたのは、その活動の拡大をはかるためであった。

ところが、漢字簡略化は今後もうやらないというわけではないだろう。漢字の発展史からみて、また社会における実際の必要性からみて、今後漢字を簡略化しないということは、決してあり得ない。ただ急ぎすぎないというこ

2) 同上、12ページ。

3) 同上、12ページ。

4) 『語言文字学』1986. 5, 7ページ。

5) 「人民日報」'86. 5. 1。

とであり、慎重な対処が期待されるだけである。

今世紀末の残る十余年、言語文字政策の中心は、共通語の普及であろう。憲法にうたわれたのはその証明だ。共通語と方言・少数民族語の二重言語生活の充実は、経済建設や各分野の建設を必ずや発展させるであろう。四つの現代化といわれる中国の近代化は、言語文字の近代化とも分ち難く関連している。共通語の普及とともに、「漢字に対してひき続き段階を追って着実に改革する必要性をますます多くの人が認識すること⁶⁾」は、疑う余地のないことだ。また漢語拼音で入力、漢字で出力するコンピュータの開発成功は語文現代化への一つの突破口であり、コンピュータの普及と応用にも有利である。

ローマ字つづり——ピンインは、新時代に対応するのに不可欠の発音“文字”である。いまだ億を数える文盲の一掃にも、小中学生の学習にも大きな役割を果す。

同様に、111字に代表される二度目の簡化字は、(将来もし仮に)理にかなった部分が通用したとすれば、それ相応の益をもたらすであろう。再度簡略化せずとは、そのあとに課される段取りではなからうか。任重くして道なお遠しである。

最後に、大阪外国語大学の大河内康憲教授からご指導いただいたことに対し、感謝致します。

6) 同上, '84. 10. 22。